

# JAグループ鳥取自己改革推進レポート（12月号）

## 1. JAグループ鳥取の取り組み

### ① JA子どもフェスタで受賞者を表彰

12月5日、琴浦町で「JA子どもフェスタ」を開き、第56回わかば作文・図画コンクールとJA共済鳥取県小・中学生第64回書道・第43回交通安全ポスターコンクールの受賞者を表彰した。また、県畜産ふれあい祭家畜の絵コンクールの表彰も行った。

JA鳥取県中央会の栗原会長が挨拶し、表彰状や副賞のほか、大山乳業農協の大山バターケーキなどが手渡された。

わかば作文・図画コンクールでは、作文が県内51校217点、図画が84校から416点の応募があった。両部門合わせて昨年より44校、134点応募が増えた。



### ② 農業高校対抗料理コンクールを開催

JA鳥取県中央会と県農業農協教育研究協議会は12月9日、鳥取市で第25回農業高校対抗料理コンクールを開いた。「コロナ禍でのオリジナルテイクアウト弁当」をテーマに県内農業高校4校が挑戦した。

4校は県産ブランド米「星空舞」や、大山乳業農協の白バラ牛乳、県産牛などを使用。審査では、素材の持ち味や発想性などを審査した。

グランプリには県立鳥取湖陵高校の「ぎゅ〜（牛）っと！！こうりよっぴ弁当」が輝き、連覇を果たした。



### ③ 中国地区営農指導員交流集会開催 鳥取県代表が最優秀賞を受賞

12月15日、中国地区営農指導員交流集会がWEB会議システムで開催された。各県代表5人が営農指導事業の成果を発表し、鳥取県からはJA鳥取中央琴浦営農センターの後藤慎司さんが出場した。

後藤さんは「琴浦ブロッコリー躍進」と題して発表し、見事、最優秀賞を獲得。来年2月19日にWEB開催されるJA営農指導実践全国大会に中国地区代表として出場する。



#### ④ J Aグループ鳥取と県生協 大学生の生活支援

12月21日、J Aグループ鳥取と県生協は県内の大学へ生活支援物資を提供し、コロナ禍で生活に困窮する大学生を支援した。

提供先は鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学。J Aグループ鳥取は、県産ブランド米「星空舞」の1袋2キロ入り330袋とパックご飯660個を提供。県生協はレトルトカレーなどの保存食を提供した。



## 2. J A全農ととりの取り組み

### 大阪府学校給食関係者へ調理講習会を実施～鳥取県産食材を活かしてオンライン調理講習～

11月21日、大阪市阿倍野区「みんなのLDK キッチンスペース」において大阪府内の学校給食関係者を対象とした「オンライン調理講習会」を開催した。(主催：全農鳥取県本部、運営：和食給食応援団)

この講習会は、学校給食における鳥取県産食材のさらなる消費拡大を目的に、大阪府内の栄養教諭・学校栄養職員ら約50名がオンラインを使用して参加した。

講習会では「子どもに伝えたい鳥取県の農業、農産物の魅力」と題して、白ネギの生産者から白ネギの栽培方法や特徴、生産の難しさや楽しさについての説明とともにJ Aや全農の担当者からも星空舞やブロッコリーなど鳥取県産農産物について紹介した。

調理実演では「鳥取県産野菜を活かした和給食献立」として芦屋市の日本料理店「京料理たか木」の高木一雄氏により、主菜・副菜・汁物の3品が調理紹介された。

主菜：大山どりの松風焼き（鳥取県産白ネギ・ねばりっこを使用）
副菜：ブロッコリーのみたらし風（鳥取県産ブロッコリーを使用）
汁物：鳥取県産白ネギとしいたけの肉吸い

当県本部では今後、食育や宣伝活動に加え、学校給食関係者に向けた取り組みを拡大していく予定である。



白ネギの説明をする生産者



オンライン調理実演の様子



鳥取県産野菜を使用した  
和給食献立

### 3. JA鳥取信連の取り組み

#### JAカード推進イベント開催について

10月15日、直売所「グリーンこくふ吉方」でJAカード推進イベントを実施した。

この企画は、JA鳥取いなば国府支店よりJAカードの推進イベントを直売所でやってみたくてという声を受け、JAカード（株）が作成した

「2020年度JAカード推進サポート施策」を活用し開催した。

同直売所は、交通のアクセスも良いことから遠方からの利用者も多く、イベント当日も国府地域のお客様で会場が賑わいを見せていた。今回のイベントは推進サポート施策の「窓口来店誘導推進マニュアル」に基づいて実施した。来店されたお客様に直売所に関するアンケートに答えていただいた後、JAカードについて簡単に説明し、興味をお持ちいただいた方にはブースで詳しい説明、申込みの予約票を記入いただいた。

国府支店の共済課、営農経済課の職員の協力で会場を盛り上げ、一人ひとりの経験と知識を活かしたセールスを実践した結果、JAカードの申込み予約を20件獲得、イベント終了後の素早いフォローで内15件を成約に結び付けることができた。

金融窓口の職員は声掛けから成約まで1人で完結させたことで、「伝える」から「伝わる」セールスができた喜びを実感することができた。また、共済課職員もブースに来られたお客様に共済の「お見積りキャンペーン」を提案し、他社からの自動車共済の変更成功するなど、確かな手応えと大きな収穫を得ることができた。



### 4. JA共済連鳥取の取り組み

#### 令和2年度 書道・交通安全ポスターコンクールについて

JA共済では、共済事業の相互扶助・思いやりの精神を、次代を担う小・中学生にも伝えていくとともに、書写教育への貢献および図画工作・美術教育の高揚をはかり、交通安全思想を幅広く社会に訴えることを目的として「書道・交通安全ポスターコンクール」を開催している。

本年度はコロナ禍の中、昨年並みの応募があり、書道部門7,788点と交通安全ポスター部門493点の力作が寄せられた。

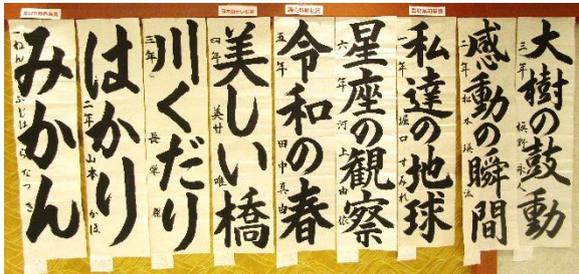
10月2日に審査会が開催され、各部門・学年ごとに金賞、銀賞、銅賞の162点と金賞作品の中から特別賞13点が決定された。また、12月5日に開催された「JA子どもフェスタ」において金賞・特別賞の受賞者を招き、表彰式が行われた。



審査会の様子



半紙の部 金賞の作品



条幅の部 金賞の作品



ポスターの部 金賞の作品